

製品名: ケラチン 8 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12983**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT8 CYK8
別名	Keratin, type II cytoskeletal 8 (Cytokeratin-8) (CK-8) (Keratin-8) (K8) (Type-II keratin Kb8)
遺伝子 ID	3856.0
SwissProt ID	P05787
免疫原	ヒトケラチン 8 ポリクローナル由来の合成ペプチド

背景

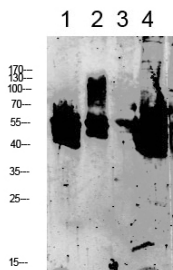
ケラチン 8 (KRT8) ホモサピエンス この遺伝子は、12 番染色体長腕にクラスター化したタイプ II ケラチンファミリーのメンバーです。タイプ I およびタイプ II ケラチンはヘテロ重合し、上皮細胞の細胞質内で中間径フィラメントを形成します。この遺伝子産物は通

常、ケラチン 18 と二量体を形成し、単層上皮細胞内で中間径フィラメントを形成します。このタンパク質は細胞構造の完全性を維持する役割を果たすほか、シグナル伝達および細胞分化にも関与しています。この遺伝子の変異は、原因不明の肝硬変を引き起こします。この遺伝子には、選択的スプライシングによる転写バリエーションがみつかっています。 [RefSeq 提供、2012 年 1 月]、疾患:KRT8 の欠陥は、原因不明の肝硬変[MIM:215600]の原因です。、機能:KRT19 とともに、横紋筋のコスタメアで収縮装置をジストロフィンにリンクするのに役立ちます。、その他:細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I (酸性、40~55 kDa) と II (中性から塩基性、56~70 kDa) の 2 種類があります。、PTM:複数の部位で O-グリコシル化されており、グリカンは単一の N-アセチルグルコサミン残基で構成されています。、PTM:セリン残基のリン酸化は、EGF 刺激および有糸分裂中に促進されます。 Ser-74 のリン酸化は、ケラチンフィラメントの再構成において重要な役割を果たします。、類似性: 中間径フィラメントファミリーに属します。、サブユニット: 2 つの I 型ケラチンと 2 つの II 型ケラチンからなるヘテロ四量体。ケラチン-8 はケラチン-18 と会合します。KRT20 と会合します。HCV コアタンパク質および PNN と相互作用します。KRT19 と会合すると、DMD と相互作用します。TCHP と相互作用します。、組織特異性: ジストロフィンおよびスペクトリンを含む構造において、筋形質膜のコスタメアに蓄積する筋線維に認められます。口腔内の歯肉粘膜および硬口蓋に発現します。、

研究分野

シグナル伝達

画像データ



- 1 mouse-brain
- 2 mouse-liver
- 3 CACO2
- 4 3T3

各種溶解液のウェスタンブロット分析。抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。